

# たからざか

良質で高度な医療を提供し  
住民に愛される病院を目指します。



令和5年  
11月発行  
No.80

大牟田市宝坂町2丁目19番地1  
TEL 0944-53-1061  
HP <https://www.ghp.omuta.fukuoka.jp/>



## 部署紹介 栄養科

栄養科では安心、安全な食事はもちろんのこと、患者満足度の高い食事の提供を目指しています。年4回行っていましたイベント食が新型コロナの影響で開催が難しくなり、少しでも患者さんの入院生活の満足に繋がるように、昨年より「スイーツコレクション」を開始しました。

今回はその一部をご紹介したいと思います。季節の果物やスイーツを毎月1回提供して患者さんには大変好評を得ています。



R 5年4月  
<あまおうモンブラン>



R 5年5月  
<宇治抹茶ムース>



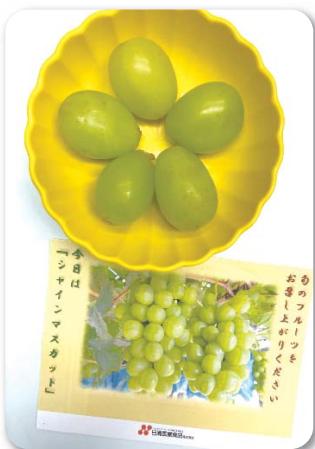
R 5年6月  
<スフレロール>



R 5年7月  
<宮崎県産マンゴー>



R 5年8月  
<北海道赤肉メロン>



R 5年9月  
<シャインマスカット>

# 閉塞性動脈硬化症



血管外科 部長 おおの ともかず  
**大野 智和**

閉塞性動脈硬化とは動脈硬化が原因で、下肢の動脈が狭くなり（進行すると閉塞します）血流障害を起こす病気です。

## ◎症状

歩き始めは無症状でも、歩き続けているとふくらはぎの筋肉がより酸素・血流を欲しがるために、血流障害が現れふくらはぎが痛んだり、こわりが出てきます。しかし、休憩すると酸素・血流量が少なくてすむので症状も一旦改善します。このような血流障害に伴う症状を間欠性跛行といい、閉塞性動脈硬化の典型的な症状です。症状が進行すると、痛みやこわりができるまでに歩ける距離がだんだんと短くなっています、50m程度ごとに休憩をしなければならないといった状況となります。

進行するといっとしてても特に足先に疼痛出現します（安静時痛）。最終的には足趾や足部に潰瘍が出現します（虚血性潰瘍）。傷が治るためには血流が必要ですので、血流障害が原因でできた潰瘍が自然治癒することはまずありません。最終的には潰瘍が足部全体の壊死へと進展し、下肢を切断しなければならない状況へ進展してしまいます。

## ◎検査

### ※ABI検査

足首と腕の血圧を測定し下肢血流を評価する検査です。通常は足首の方が腕で測定した血圧よりも高くなります。閉塞性動脈硬化の患者さんでは足の血流障害があるため足の血圧が腕で測定したものよりも低くなります。簡単な検査ですが閉塞性動脈硬化では非常に有効な検査です。足の血圧を腕の血圧で割った数値が 0.9 を下回ると血流障害があると判断されます。



<ABI検査>

### ※画像検査

エコー や CT、MRI などで血管の形状を評価し、治療方針を決定します。後述の血管内治療の際に血管造影検査を行います。

## ◎治療

TASC II という国際的な閉塞性動脈硬化の治療ガイドラインに則って治療を進めていきます。最初からバイパス術が選択されることはありません。

### ※運動療法

足の血管が完全に詰まっているのに無症状の方もいます。自然と脇道（側副血行路）が発達するからです。間欠性跛行<sup>はこう</sup>がでるまで歩くことによってこの側副血行路の発達が促されます。逆に歩くと足が痛くなるからと歩かないといつまでもたってもこの側副血行路が発達しません。

### ※禁煙

喫煙は側副血行路の発達を阻害することが知られており禁煙は必須です。

### ※薬物療法

血液をさらさらにするお薬で下肢の血流を改善します。

### ※血行再建

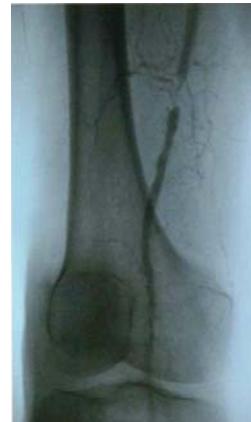
上記治療にても血流障害の症状が残存する場合は血行再建術が選択されます。

#### \* カテーテル治療

細くなった動脈・閉塞してしまった動脈にカテーテル（細い管）を通して、先端についた風船で動脈を広げる治療です。ステントという金属製の筒状のメッシュを病変部に置いてより治療効果を高めます。

#### \* バイパス術

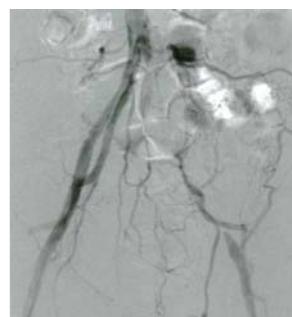
閉塞した病変が長かったり、関節部でステントが留置できないなどの理由でカテーテル治療が出来ない場合もあります。その際は自身の静脈や人工血管を用いて人工のバイパスを作る手術が選択されます。



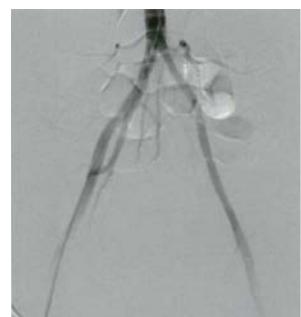
<大腿動脈閉塞>



<カテーテル治療後>



<腸骨動脈閉塞>



<カテーテル治療後>



自家静脈によるバイパス術

- 左：大腿 - (膝上) 膝窩動脈バイパス
- 中：大腿 - (膝下) 膝窩動脈バイパス
- 右：大腿 - 後脛骨動脈バイパス



# 出前講座 『肩こり予防』

大牟田市の事業、「市役所職員出前講座」で当院の職員が、出前講座を実施しました。今回は『肩こり予防』をご紹介します。

肩こりは、年齢や性別に関係なく、多くの方が抱える悩みです。その原因は、首や肩だけでなく、内臓の病気や高血圧、眼精疲労の場合もあります。原因が見つかればそれを治療すればよいのですが、検査をしても原因が分からない肩こりも多くあります。

この講座では、当院の理学療法士が、肩こりの原因、解消法や予防についてお話ししています。姿勢の正しい保持やストレッチ、筋肉を鍛える体操など、日常生活で取り入れられる簡単な肩こり予防や解消法も紹介しているので、興味を持たれた方は、ぜひ出前講座を受講してみてください。

ストレッチは  
休憩時間や作業の合間など  
**「できるときに行う」**  
ことが大切です！



当院では、職員がその専門性を活かした出前講座を実施しています。今回紹介した「肩こり予防」以外にも様々な講座がありますので、ご関心のある方は、大牟田市ホームページの「市役所職員出前講座」をぜひご覧ください。

- ・URLから「市役所職員出前講座」をチェック！  
(<https://www.city.omuta.lg.jp/kiji0032883/index.html>)
- ・QRコードから  
「市役所職員出前講座」をチェック！

